

風水害について

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことです。身を守るために自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておきましょう。

雨の強さと降り方

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
ザーザーと降る。 10mm以上～20mm未満	どしゃ降り。 傘をさしてもぬれる。 20mm以上～30mm未満	バケツをひっくり返したように降る。 30mm以上～50mm未満	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)。 50mm以上～80mm未満	大規模な災害の恐れが強く、 嚴重な警戒が必要。 80mm以上～

風の強さと吹き方

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
風に向かって歩きにくくなる。傘がささない。樹木全体や電線が揺れ始める。 平均風速 10m/s以上～15m/s未満	風に向かって歩けない。転倒する人もでる。雨戸やシャッターが揺れる。 平均風速 15m/s以上～20m/s未満	立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。 平均風速 20m/s以上～30m/s未満	屋外行動はさきわめて危険。電柱や街灯、ブロック塀で倒壊するものがある。 平均風速 30m/s以上

水害には河川の水位が上昇することによって起こる外水氾濫と、市街地で雨水の量が排水処理能力を超えて起こる内水氾濫があります。

外水氾濫については気象庁等から注意情報や警戒情報が発表されるので、避難する際の参考にしてください。

氾濫の発生 (氾濫発生情報)	鬼怒川	荒川	荒川	内川	五行川
	(観測所：佐貫(下))	(観測所：蓮城橋)	(観測所：松島橋)	(観測所：旭橋)	(観測所：民家体育館前)
氾濫危険水位 (氾濫危険情報) (レベル4)	3.30m	2.50m	—	—	1.80m
避難判断水位 (氾濫警戒情報) (レベル3)	2.60m	2.00m	—	—	1.30m
氾濫注意水位 (氾濫注意情報) (レベル2)	2.30m	1.50m	2.20m	2.40m	1.20m
水防団待機水位	1.50m	1.20m	1.90m	2.10m	0.90m
普段の水位					

土砂災害について

「土砂災害」は、台風、大雨、地震などにより発生しやすくなります。「崖崩れ」、「土石流」、「地滑り」といった土砂災害が発生する前に起こるさまざまな前兆現象に注意しましょう。

土砂災害の前兆・種類

※ 下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起こるというものではありません。

崖崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。

- ひびわれが入る
- 小石が落ちる
- 木の倒れる
- わき水の量が増える
- 枝の切れる音がする
- 木の傾いたり倒れる
- 小石がバラバラ落ちる
- わき水が止まる(あるいは噴きだす)
- 頭部のひびわれ
- ひびわれが大きくなる

崖崩れ発生

土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へ押し流されることをいいます。

- 異常な山鳴り
- 山の樹木がザワザフと騒ぐ
- 山の裂ける音がする
- 腐った土のおいがする
- 地鳴りがする
- 流木が混じる
- 川の水位が急に下がる
- 急に水が濁る
- 流木が混じる

土石流発生

地滑り

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。

- ひびわれ・段差ができる
- 木の騒ぐ音、裂ける音がする
- 水が噴出する
- 道路などにひびわれ
- 斜面にひびわれ
- 家が傾く
- 道路などにひびわれ
- 池が濁る
- 川が濁る

地滑り発生

土砂災害警戒情報に注意

「土砂災害警戒情報」とは、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったとき、都道府県と気象庁が共同で発表する防災情報です。避難の判断に役立ててください。

垂直避難が最後の手段

外に出るのが危険なときは2階以上で斜面と反対側の部屋に避難するなど少しでも安全な場所に移動してください。